

排水・雑草対策などの基本技術を徹底して、
単収 220kg 以上、2 等級以上を目指しましょう！

1 連作障害回避及び排水対策

(1) ほ場の選定

- ア 畑で作付けする場合、地力の低下や病害虫（黒根腐病やダイズシストセンチュウ等）被害防止のため、連作は2年までとする。
- イ 転換畑で作付けする場合、ほ場を団地化し、周囲からの水の浸入を防止する。
なお、畑と同様、数年サイクルで団地を動かす（水田に戻す）。

葉の黄化・生育不良



図1 ダイズシストセンチュウ被害ほ場

ダイズシストセンチュウ

【症状】

坪状に葉が黄化し、草丈、分枝数及び着莢数が減少し、減収する。

【防除対策】

- 1 長期連作を行わない。
- 2 赤クローバ等の対抗植物を輪作に取り入れ、すき込む。
- 3 未発生ほ場への侵入を防ぐため、被害ほ場の作業を最後に行う。また、使用した農機具をよく洗浄し、付着した土を落とす。

(2) 排水溝の施工（転換畑）

- ア 速やかに地表水を排除できるよう、周囲明きよを施工する。深さ 30~40cm を確保し、必ず排水口に繋げる。また、は種後は畝間を確実に周囲明きよに繋げる。
- イ 暗きよの落水口や水門の外観・止水弁の状況、排水状況が良好かどうか確認する。
- ウ 排水不良ほ場では、可能であれば、本暗きよに直交するよう、弾丸暗きよの施工（粘土質のほ場に有効）またはサブソイラによる心土破碎（全ての土壤に適応）を 4 m 程度の間隔で実施する。深さ 30~40cm を確保し、周囲明きよと接続する。

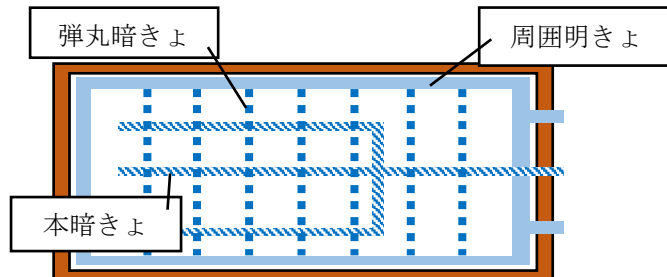


図2 排水溝施工のイメージ



図3 畝間を周囲明きよに接続

2 施肥

- (1) 酸度矯正とカルシウム補給のため石灰質肥料を施用する。

【目標：pH6.0~6.5 めやす：消石灰 100kg/10a（苦土石灰 110kg/10a）】

- (2) 施肥量は、以下の表をめやすに、ほ場の肥沃度に応じて加減する。

施肥成分量のめやす（kg/10a）

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥量の例
平坦地	1.6	4.0	6.0	ニュー大豆800 20kg
台地	1.6~2.4	4.0~6.0	6.0~9.0	ニュー大豆800 20~30kg

注) 条施用では、肥料と種子が接触して発芽障害が起きないように注意する。

3 耕うん・整地・は種

- (1) 出芽率向上のため、耕うん・は種は可能な限り同じ日に行う。また、碎土率（2 cm以下の土塊の比率）は70%以上を確保する。
- (2) 耕うんは、ほ場が十分に乾いた状態で、作業速度を遅く、耕うんピッチを小さくして作業する（2回以上耕うんする場合や転作1年目で1回目が荒いと、何回耕うんしても碎土率は上がらないので、特に1回目は丁寧に行う）。



図4 碎土率の比較

碎土率を高めることで、
出芽・苗立ちや
除草剤の効果が安定！

- (3) 適期は種に努め、適正苗立ち数を確保する。

○目標苗立ち数（品種：エンレイ）

は種時期	目標苗立ち数 (本/㎡)	は種密度のめやす			は種量 (kg/10a)
		うね幅 (cm)	株間(cm)		
			1粒まき	2粒まき	
6月10日以前	9~10	75	10~11	21~23	4.0~4.5
6月11日~20日	13~18		6~8	12~16	5.5~7.5

○は種深度

3~4 cmとし、土壤水分が高めな時はやや浅め、乾燥気味な時はやや深めに調節する。

4 雑草防除

- (1) 播種・覆土後の土壌処理除草剤＋中耕・培土で除草を行う。
- (2) 耕うん前に雑草が多い場合は、耕うん前に茎葉処理除草剤を散布する。
- (3) 帰化アサガオ類などの難防除雑草がほ場に侵入している場合は、中耕・培土と併せた除草剤の体系防除を行う。

～土壌処理除草剤の効果を高めるポイント～

- ア 碎土率を高め、覆土の厚さは3cm程度を確保する(薬害防止)。
- イ 覆土後ただちに散布し、乾燥または過湿の状態での使用を避ける(除草効果向上)。
- ウ 砂土では薬剤が土壌に吸着されず薬害を起こすので使用しない

帰化アサガオ類の防除について

帰化アサガオ類が大豆ほ場へ侵入すると防除が難しく、甚大な被害をもたらすため、つる化する前に体系防除により除去する。



【図5 帰化アサガオ類】

出芽から2~4週間でつる化し、つる化すると防除が難しくなる。

【帰化アサガオ類を中心とした、播種後の体系防除】

大豆の生育時期	方法	有効成分	除草剤の例
出芽揃期 ～初生葉展開期	除草剤散布	イマザモックス アンモニウム塩	パワーガイザー液剤
2~3 葉期	除草剤散布 ＋中耕・培土	ベンタゾン	大豆バサグラン (イネ科雑草が多い場合はイネ科に 有効な除草剤も散布する)
5 葉期	除草剤散布 (畝間・株間)	グルホシネート	バスタ液剤

- ・必ず使用薬剤の登録内容を確認！
- ・周辺ほ場の農作物に飛散しないよう十分注意する！

【問合せ先】十日町農業普及指導センター作物担当 電話 025-757-5516